

聴覚障害児の教育課程

特別支援教育講座 立入 哉

評価科目「聴覚障害児の教育課程」は、「心身に障害のある幼児，児童または生徒の教育課程及び指導法に関する科目」に含まれる特別支援学校教員免許状の必修科目である。

授業終了後に、図1に示した10項目についてアンケートを行い、回答を求めた。有効回答を平均し、図1に点数を表記した。

図より、教員の熱意が感じられる授業である一方で、学生が主体的に取り組む内容が少ないこと、内容が理解しにくい傾向にあった。

自由記述欄に見られた記述のいくつかを紹介する。

- ・たまにOHPの文字が見えにくいときがあった。
- ・もう少し授業を進めるスピードをゆっくりにして欲しい

・講義内で話さずに飛ばしてしまう内容があるのが残念。全部聞いてみたかった。

・画面に映された部分のメモを取ったり、ラインを引いているとき、写し終わらないうちに画面が変わってしまうことがあった

・もう少し学生が主体的に取り組める内容だと思いたい。

・板書はすぐに消さずに授業が終わるまで残して欲しい。または「消していい?」と一声掛けて欲しい

・小テストで○や×という回答で、なぜ×なのかという解説も入れて欲しかった。

自由記述より、理解しにくい理由はスピードと板書の利用方法に課題があることが推察できた。今後、改善すべき点であると考察した。

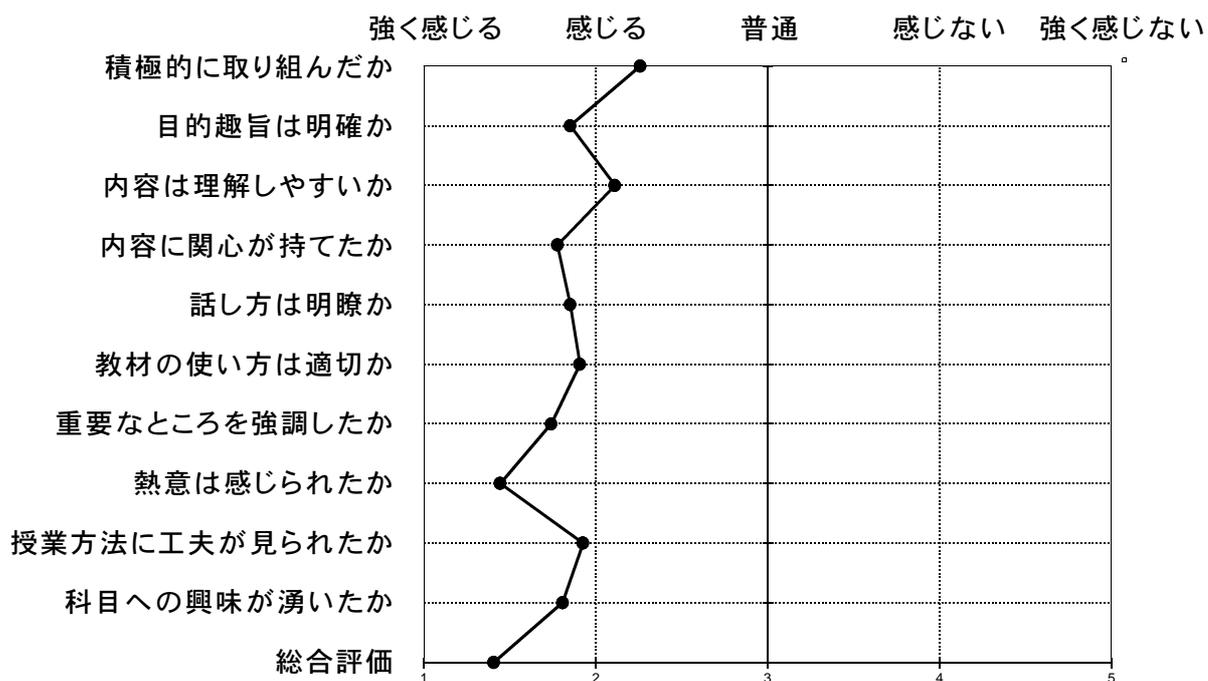


図1：授業の総合評価

卒業時の到達目標である教育学部DPのそれぞれについて、この授業の受講前と比較して向上したかどうかを尋ね、4段階で自己評価をさせた（1：向上していない、2：どちらかと言えば向上していない、3：どちらかと言えば向上した、4：向上した）。各評価項目は下記の通り。

DP1. 特別支援教育に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。（知識・理解）

DP2. 聴覚言語障害児，知的障害児，肢体不自由児，病虚弱児，重複障害児，発達障害児等の教育現場で生じているさまざまな教育課題について論じ，適切な対応を考えることができる。（思考・判断）

DP3. 子どもの発達に応じた授業の構成や教材・教具の工夫ができ，個に応じた指導や説明ができる。（技能・表現）

DP4. 特別支援学校，特別支援学級，及び通常の学級等において，特別支援の実践を経験し，その実践を省察することで，自己の学習課題を明確にし，理論と実践を結びつけた学習ができる。（関心・意欲）

DP5. 特別支援教育に対する使命感や責任感を身につけ，教育的愛情を持って児童・生徒に接することができるとともに，多世代にわたる対人関係力を身につけ，社会の一員として適切な行動ができる。（態度）

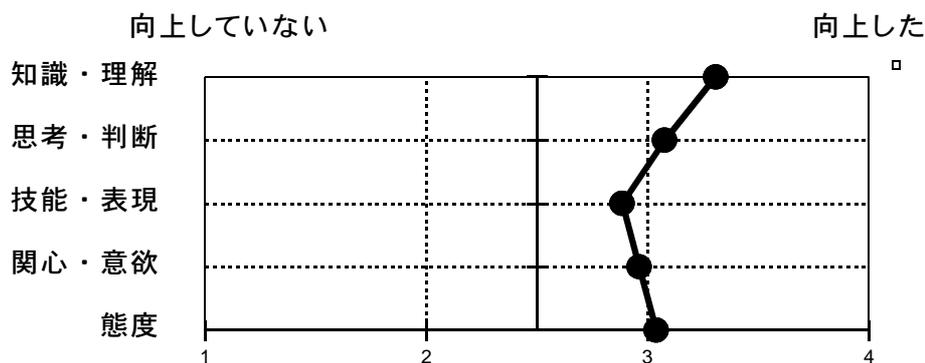


図2：DPの各項目に関する自己評価

図2の結果から、今回の講義は「知識・理解」が重点項目で、「技能・表現」領域については、より低い評価となった。科目名が「聴覚障害児の教育課程」であることからわかるように、今回の講義自体の目標が知識の獲得にあり、教育課程全体の理解にあるため、この結果はやむを得ないものと思う。

今回、毎回、講義を行い、その範囲で次回に小テストを行い、さらに最終試験として、実施した小テストを元にした総合テストを行った。小テスト全体の総平均点は72点であり、小テスト

の難易度はちょうど良い程度であった。また最終試験の平均点は88点と高く、受講生が良く勉強している様子が伺われた。最終成績の平均点は84点。28人のうち、29%が秀、57%が優、良・可は11%であった。最終試験の成績が非常に良かったため、全体的に優れた成績を付した。